

『トラブルシューティング』作…岩本憲嗣

■あらすじ

PCメーカーのコールセンターで働く美和は今日もイライラを抑えきれずにいた。お客様にキレてしまったかと思えば、友人である貴絵にも苛立つ始末。

その原因は1週間前に置手紙を残して消えた彼氏、道夫にあった。

いつのまにかすれ違っていた思い。部屋に残されたのは二人で飼っていた道夫の声で喋るオウムだけ。

そんなある日、貴絵が花火大会で道夫を見かけたという。

そしてその夜、部屋に帰った美和は道夫と再会するのだが……。

■登場人物

小野田彩（おののだあや／26歳／女／コールセンターの派遣社員）

中村貴絵（なかむらきえ／27歳／女／コールセンターの派遣社員）

杉田道夫（すぎたみちお／24歳／男／役者志望）

ピヨちゃん（ぴよちゃん／彩と道夫の飼っているオウム）

男性客

○コールセンター

彩の職場。多くのスタッフが電話応対に追われている。

彩 「ですから、先程説明致しました通り……」

男性客 「何が説明だよ。全然分かんないっての。つまりおたくのパソコンが欠陥品ってことだろ。昨日買ったばかりなんだぞ。慰謝料払ってくれよ」

彩 「恐らく一度再起動して頂ければ……」

男性客 「客が欠陥って言うてんだから欠陥だろ？」

彩 「ですので、メモリが一時的に不足してフリーズしているものと思われまして一度再起動を……」

男性客 「分かんねえよそんなの。いいから新しいの持って詫びに来いよ」

彩 「詫びません欠陥でもありません交換もできません。とにかく再起動すれば大抵のトラブルは直る何度も申し上げておりますでしょうが！！え！？」

○彩の職場・喫煙所

空気清浄機が大きな音を立てている。煙草を吸っている貴絵。そこに彩がやってくる。

貴絵 「あれ？道夫君の喉の為って煙草辞めたんじゃないやなかったっけ？」

彩 「辞めるの辞めたの。はぁ……むかつく」

貴絵 「お疲れちゃん。課長に相当絞られてたね」

彩 「コールセンターでクレーム増やしてどうするんだって……そりゃアンタは指示だしてるだけだから楽だろうけどさ」

貴絵 「大ハズレ引いちゃったんだ。ま、そういう日もあるって。んでき、そんなツイてない日に悪いんだけどさ。お願い！今日残業になりそうなの……代わって！」

彩 「何で？」

貴絵 「今夜派遣のフリー女子ご一行様で花火大会に行くの」

彩 「あたし聞いてない」

貴絵 「フリー限定ですから。なんせ目的の半分はナンパされに行くことだし」

彩 「だ……だったら……」

貴絵 「恵まれぬ男日照り女子を助けると思っただけお願い！この埋め合わせはちゃんとするから、頼んだよ彩ちゃん！」

貴絵、煙草を消すと喫煙室から出ていく。

彩 「人の気も知らないで……」

○彩のマンション

帰宅した彩がドアを開ける。

彩 「ただいま。……はぁ、疲れた。もういい寝る」

ピヨちゃんの羽ばたく音

ピヨ 「(以下すべて道夫の声で)ごめんね」

彩 「……ごめんじゃないよ。アンタと違ってこっちは働いて疲れてるのに」

ピヨ 「ごめんね」

彩 「ねえ、貴絵だったらまだあたしと道夫が付き合ってるって思ってるんだよ」

ピヨ 「ごめんね」

彩 「謝るならふるなよ……本当、急過ぎるっての。大体あたしが何したって……」

ピヨ 「ごめんね」

彩 「知ってる。全部あたしが悪いんだよ。道夫だって遊びで役者やってるわけじゃないのにね、あたしが勝手にイライラしちゃってさ……道夫がどう思ってるかなん

て全然想像してませんでしたよ、はい。いつも笑ってくれてるから上手くいって
るって勝手に思っちゃってましたよ、はいはい」

ピヨ 「……ごめんね」

彩 「謝るなって言ってるでしょ！悪いのは全部あたしじゃない！なのにさ……やめて
よ、こっちが惨めになるっての！！」

ピヨ 「ごめんね」

彩 「あぁっ！もう嫌！アンタの声訊きたくない！大体なんでまだここにいるのよ！」

彩、思い切り窓を開ける。

彩 「出てって！！お願いだから出てってよ！アンタの声聴きたくないの！」

○コールセンター

コールセンターの喧騒

○彩の職場の喫煙室

空気清浄機が大きな音を立てている。煙草を吸っている貴絵。そこに彩がやってくる。

貴絵 「よ、彩ちゃん。昨日はサンキューね。あれ？随分疲れてるね。またハズレ引いた？」

彩 「ちよっと寝不足なだけ」

貴絵 「なるほど。昨日は花火の後で道夫君と長い夜を過ごしちゃったってことだ」

彩 「は？」

貴絵 「は？じゃないよ。昨日花火来てたんでしょ」

彩 「行っていないよ」

貴絵 「え？でも道夫君みかけたよ。一緒じゃなかったの？」

彩 「道夫！？ね、ねえ！それ本当！？」

貴絵 「あの派手な顔は見間違えないって」

彩 「何か話した？今どこにいるとか……」

貴絵 「ねえ……どうしたの？」

彩 「いや、何でも……」

貴絵 「なくない！なに？道夫君と何かあった？まさかアイツ浮気したとか！？」

彩 「してないって。悪いのはあたしだもの」

貴絵 「悪い？彩ちゃんが？何で？」

彩 「だからその……喧嘩した」

貴絵 「それで？」

彩 「置手紙残された」

貴絵 「何て？」

彩 「どう接していいか分からなくなったからちよつと距離置きたいって」

貴絵 「別れたの？いつ？」

彩 「……一週間前」

貴絵 「え？でもおかしくない？一昨日彩ちゃんに電話した時、道夫君の声聴こえたよ」

彩 「それは……多分彼の声」

折り畳み携帯を開く彩

貴絵 「こりやまた道夫君によく似て派手な……オウム？」

○彩のマンション

ドアを開ける彩

彩 「ただいま」

道夫 「おかえり」

彩 「ピヨちゃん？まだいたの？……え？なんで……道夫？」

道夫 「ごめんね、合鍵返し忘れてたから勝手に入ってた」

彩 「なんで……だって、手紙……」

道夫 「うん。距離置いてさ……彩さんがいない時間ってのを過ごしてみたら……なんか分かったっていうか……」

彩 「何が？」

道夫 「不満も沢山あったけど、それ以上に寂しさが勝ったっていうか。全部リセットして一人になってみたら……なんか彩さんのことばかり考えちゃって……そしたら嫌だっと思ってたことなんて全部どうでもよくなっちゃった」

彩 「……うん」

道夫 「つまりはまた会いたくなっちゃった。……勝手言ってごめんね」

彩 「そうか……大抵のことはこうすれば解決出来るって……言ってたわ」

道夫 「なに？」

彩 「仕事の話」

道夫 「話してよ」

彩 「そうだね……あのね、なんかこれ再起動だなって思ってた。だからさ、そのスイッチってワケじゃないけどさ、キスしよう」

道夫 「何言ってるの？」

彩 「イライラ貯めすぎてフリーズしないように言いたいこと言うって決めたの。ほら」

道夫 「わ、分かった」

開け放った窓からピヨちゃんが羽音を立てて飛んてくる。

ピヨ 「ごめんね。ごめんね」

道夫 「わっ！ピヨちゃん！？」

ピヨ 「ごめんね。ごめんねごめんね」

彩 「本当だよ。いいとこなのに邪魔して」

ピヨ 「ごめんねごめんねごめんね」

彩と道夫、同時に笑い出す。

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumba1227@hotmail.com) までメール報頂きますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間内で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skype などを通じての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキヤスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

gumba1227@hotmail.com (岩本)